

武庫川縦断シリーズ⑤

道場から武田尾(西谷回り)

第 196 回武庫川エコハイク

2023. 10. 14 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²・丹波篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の蓬川の東側が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は丹波篠山市にある。丹波篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

武庫川渓谷 武庫川渓谷は約 100 万年前ごろの六甲山隆起により穿谷された渓谷である。神戸市北区道場地区から西宮市生瀬地区までの全長 14 kmの武庫川渓谷のうち特に武田尾から生瀬までの 7 kmを**武田尾渓谷**と呼び武庫川に沿って旧国鉄福知山線廃線跡があり四季折々の景観の美しさ生物の多様性から都心に近いハイキングコースとして市民に親しまれている。他の河川と異なり上流にあるはずの渓谷が下流沖積平野の直上にある。

JR 道場駅 明治 32(1899)年阪鶴鉄道が三田まで開通とともに道場駅が開設された(現 JR 福知山線)。当初は木材、薪炭の輸送が多かったが、大正 3(1914)年千苧水源池の工事が始まり、工事用資材の搬入に貢献した。当時は貨物引込み線もある駅だった。現在は千苧水源池、鎌倉峽、百丈岩ハイキングの玄関口。

富士チタン工業(株)神戸工場 石原産業(株)の完全子会社。神戸工場では酸化チタンの製造をしている。同社の酸化チタンはアクリル・ポリエステル等の化学繊維の艶消し剤、樹脂用着色剤用途などに使われている。化合維用酸化チタン及びチタン酸バリウムなど電子材料を中心とする無機酸化物材料メーカーである。(同社ホームページより)

新名神高速道路 中国自動車道、山陽自動車道の神戸ジャンクション(JCT)から名神高速道路高槻 JCT 間が平 30(2018)年 3 月開通。武庫川では武庫川上流浄化センターの北側を通過。

新名神武庫川橋 浄化センター北側、武庫川を渡る橋。橋長 442.2m、高さ 81m、橋脚直径 5.5m。橋梁上部工に世界で 2 番目の事例となるパタフライウェブエクストラード箱桁橋を採用。

兵庫県武庫川上流浄化センター 北摂地域(神戸市北区東部、西宮市北部、三田市)の人口増に対処する為、広域下水道武庫川上流浄化センターが昭和 54(1979)年に着工され、昭和 60(1985)年に完成した。スラッジ(汚泥)は送泥管で武庫川河口の県スラッジセンターへ送られている。右岸側の増設予定地に武庫川の治水のための遊水地整備が平成 31(2019)年完成した。

県道玉瀬道場線 武庫川に沿って走る県道玉瀬道場線は平成 16(2004)年 23 号台風の洪水で約 3mの冠水をみた等洪水時の冠水常襲地域である。下流の**県道切畑道場線**は武田尾上流から川下川の間約 900m が未開通(岩場の状態)である。

川下川 宝塚市布見ヶ岳(356m)に源流をもつ、玉瀬浄水場付近で境野川と玉瀬川が合流し川下川となる。中流に川下川貯水池がある。神戸市北区と宝塚市の境界。

川下川貯水池 宝塚市の水道専用ダム、昭和 47(1972)年着工、昭和 52(1977)年完成。堰堤高さ 45m のロックフィルダムで日本で 2 番目の規模。川下川の水を貯留するほか導水路に設置し

た切畑、立会新田、長尾山の各溪流取水を集水して有効貯水量 265 万 m³を貯留する。ダムの水は導水トンネルと管路により惣川浄水場へ。浄水処理された水は市南部の武庫川左岸側を中心に給水し市の約 25%にあたる。

宝塚市西谷 宝塚市北部長尾山山系の北側に位置し、元は川辺郡に属していた。西谷という名前は川辺郡を南北に区切っている山々の谷間に出来た村々の総称。大阪に近い方から東谷(現川西市)、中谷(現猪名川町)、西谷(現宝塚市)という地域の一部である。西谷村は昭和 30(1955)年 4 月宝塚市と合併した。宝塚市の 2/3 の面積を占め、豊かな自然が残る。

新名神高速道路(宝塚北サーブリエリア) 大岩稲荷の谷上部玉瀬に誕生。西日本最大級の規模という。スマートインターチェンジを併設する。平成 30(2018)年 3 月 18 日開通。中国自動車道宝塚IC付近の渋滞緩和を期待するもの。高槻 JCT から神戸 JCT へつながる。

僧川 「ぼうさんがわ」ともいう。古宝山を源流とし上流に宝塚市の上水の溪流取水場がある。支流に坊川がある。武庫川本川合流域の洪水対策として河川付替え改修工事と新名神高速道の工事がからみ僧川と県道の大規模改修工事がなされた。平成 29 年完成した。

大岩稲荷 伏見稲荷の託宣により分霊されたもので昭和の初め宮司乾忠五郎と氏子崇敬者によって再建された。なお老朽化で拝殿と鳥居は新改築された。ご神体の大岩・小岩がある。

水管橋 神戸市水道局千苧水源池から西宮の上ヶ原浄水場への送水管。大正 8(1919)年完成。橋脚は近代土木遺産の一つ。

武田尾温泉 1641 年に名塩の獵師武田尾直蔵が発見したと伝えられる。18 世紀中頃には武田尾温泉が金龍湯と呼ばれていたという文献がある。硫化水素をわずかに含有する単純泉。旅館は 4 軒あった(左岸に紅葉館、右岸にマルキ旅館・河鹿荘・元湯旅館)。平成 28(2016)年武庫川の護岸改修工事に伴い右岸のマルキ旅館は立退き移転。現在は宝塚市側(左岸)の紅葉館と西宮市側(右岸)の元湯旅館の 2 軒の営業である。

温泉橋 旧武田尾駅の改札口前の位置にあり、周辺に茶店があった。この辺りの家屋 23 戸は平成 16 年 10 月の 23 号台風で床上浸水の被害を受けた。この地区は全戸移転して、嵩上げし洪水対策工事が平成 29 年度完了し区画整理され駐車場と宅地に使用。玉瀬財産区の土地

旧国鉄武田尾駅 旧国鉄武田尾駅は阪鶴鉄道の駅として有馬口駅(現生瀬駅)から三田駅間の開通とともに明治 32(1899)年開設、明治 40(1907)年国鉄福知山線武田尾駅となる。武田尾温泉、また旧西谷村の玄関口として開設され、湯治客、西谷村の農林産物の出荷駅として賑わった。今は福知山線の複線電化に伴い新駅が旧線と直角に交わる形で設置され旧駅舎、プラットホーム等は県道(市道)になっている。現在の**温泉橋**の所に改札口があり「歓迎看板」が残っている。かつては上下の列車がここですれちがっていた。井戸は旧武田尾駅の井戸である。

旧福知山線廃線跡 旧福知山線は明治 32(1889)年阪鶴鉄道として建設、明治 39(1906)年国鉄になり、昭和 61(1986)年廃線となった。平成 11(1999)年**桜の園開園**と同時に宝塚市側がハイキング道として開放された。西宮市側は平成 28(2016)年 11 月、JR が安全対策工事を行ったので利用者の自己責任のもとにハイキングコースとして開放された。

桜の園「亦楽山荘(えきらくさんそう)」 面積約 40ha、元笹部新太郎氏(1887~1978)の桜研究演習林。現在は宝塚市の里山公園。里山ボランティア団体「櫻守の会」が保全活動を行っている

JR 武田尾駅 80%がトンネルの中にある無人駅。西宮名塩駅との間はトンネルで結ばれた。